

YPP下大和田 & 小山の米づくり2009

下大和田

今年も昨年同様、YPPの田んぼと地元の方の田んぼの稲作を行います。

コシヒカリ/古代米の苗も昨年同様、自前で作りませんが、作業の効率性からYPP田んぼ用の苗はYPP田で、地元の方の田んぼ用はその田で行い苗の運搬の労力を無くしたいと思います。

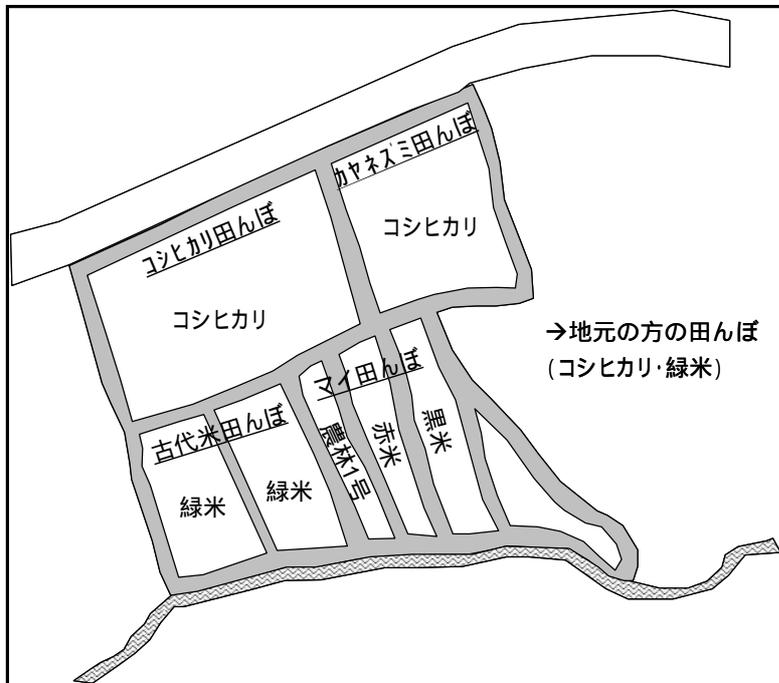
昨年はコシヒカリ及び緑米の苗が少なかったため今年は多めに用意します。

作付けは基本的に昨年と同じにしようと思っておりますが、右の概略図の様作付けを考えています。YPP田では例年通りコシヒカリ、緑米を中心として、マイ田んぼでは黒米、赤米、農林1号を1/3ずつ植えつける予定です。

地元の方の田んぼではコシヒカリ4枚、緑米4枚に特化し作業を簡単化します。

コシヒカリの播種は4月5日を予定していますが、まだ、気温も水温も低いためビニールトンネルを掛けることにしますので、皆様のご協力をお願いします。

古代米の田植えは昨年と同じように例年より2週間ほど早くして秋の実入りをよくしてみたいと思っています。



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
コシヒカリ		播種 (5日)	田起こし(9日)・ 田植え(16日)	← 草取り →			稲刈り (19日ごろ)	脱穀	
古代米		播種 (18日)		田植え (7日)	← 草取り →			稲刈り (24日ごろ)	脱穀

出来るだけ多くの人に色々な作業に参加してもらって稲作を楽しもうと思います。希望者があれば 自分専用の田んぼも用意できますので早めにちば環境情報センターまでメールやお電話、ファックス等でお申し出下さい。その田んぼでは基本的に田植え/稲刈り等は主体になって作業をお願いします。

(石橋)

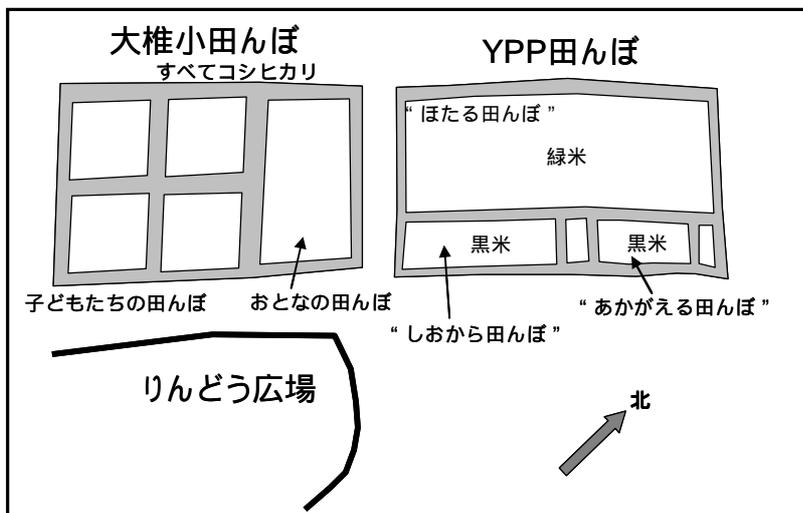
小山

4年目を迎えるYPP田んぼでは昨年と同じように古代米の緑米と黒米を育てます。去年は黒米の生育が今ひとつでしたが、今年はどうでしょう？5月6日に苗代を作り、6月13日に田植えの予定です。

YPP田んぼの隣の大椎小田んぼでは今年も5年生が米づくり体験をする予定です。今年は3クラスなので「田」の字型の4区画のうち、一つが余ってしまいますが、元気な子どもたちがきっとそこも植えてくれることでしょう。

そして、5年生の田んぼとYPP田んぼの間に新しい田んぼが誕生しました。学校田んぼをお手伝いしてくれるお父さん、お母さんや地元のボランティアの方が米づくりをする田んぼです。放棄されてアシ原だった場所を保護者のみなさんに学校の先生たちも一緒になって力を合わせて耕して復活した田んぼ。お米の育ち具合はどうでしょう？

これ以外に、去年から地元の方の田んぼおよそ1反歩での米づくりもお手伝いしています。自然観察会でもおなじみの生きものいっぱい田んぼを何とか守っていきたくと思います。4月12日にコシヒカリの苗代を作り、5月に少しずつ田植えを進めますので、ご協力よろしくをお願いします。



(高山)

アメリカザリガニ

谷津田の人気者アメリカザリガニ、獲って楽しい、飼って楽しい、食べてもおいしい! ? 子供たちにとってのナンバーワンの人気者です。筆者も子供のころ夢中になってザリガニ獲りをしました。今でも八サミの大きなザリガニを見ると心が躍った記憶が鮮明によみがえります。

アメリカザリガニはその名の通り、アメリカからやってきました。1930年アメリカの南部、ニューオーリンズから神奈川県食用ガエル(ウシガエル)の餌として約20匹放ったのが最初のお目見えです。すでに1955年頃には日本各地に広がっていたということですから、彼らの繁殖力の凄さがうかがわれます。

約80年後の今日、日本国中の止水域でアメリカザリガニがいない場所を探すのが困難なくらいに広がりました。

そして今、アメリカザリガニは子供たちが水辺の生き物に触れるきっかけとなっている重要な役目を果たしていると言えます。

アメリカザリガニの特徴を紹介します。

産卵から孵化、お母さんのお腹の下で卵は400~500個、雌は自分の尾の下(腹部)にある腹の足(第1腹脚~第6腹脚)に卵を産み付けます。それから約2週間、卵から小エビが生まれます。さらに約1週間後に最初の脱皮。さらに15日後に2回目の脱皮をします。そしてお母さんのお腹から離れます。

脱皮

その後も1年に5~10回もの脱皮をして成長を続けます。寿命は5~6年とされています。

オスとメスの見分け方

尾(腹部)の下にある腹脚に大きな違いがあります。メスは卵を抱えるので第1腹脚~第6腹脚のすべてが長いことが特徴。オスは第1腹脚だけが硬く、長く一目でわかります。これは交尾器となっています。その他として、オスのはさみの方が大きくなります。

食べ物

雑食性で水中の藻から小魚、ヤゴ、えび類、カエルなど。

天敵

小エビのときはヤゴやカメに捕食されます。その後ウシガエル、カムルチー・ナマズなどの大型魚類、モズ・サギといった鳥類。

アメリカザリガニの獲り方

網に追い込む・・・アメリカザリガニがいそうな岸に近い場所に網を置き、足や棒で網の手前をかき混ぜる。驚いたアメリカザリガニは逃げたつもりが網に入る。

仕掛けを使う・・・釣りのことです。竿と糸を用意。餌は煮干しやすめを結びます。餌が目の前に来るとアメリカザリガニははさみでつかみます。そしてつかんだ後は離しません。

(平沼勝男)



田んぼのアメリカザリガニ(下大和田にて、撮影:田中正彦)

ちょっと豆知識

容積の単位~合、升、斗、石~

ご飯を炊くとき「合(ごう)」という単位を使います。お米の計量カップはちょっと小さめの180ccと中途半端な数字です。日本酒でも同じ単位を使っていますね。この「合」という単位、人が1食に食べるお米の量を1合として決められたそうです。1合を炊くと茶碗2杯分くらいになるのでちょっと多めかもしれませんが、昔の人はお米をよく食べたのでしょう。10合が1升(しょう、1.8リットル:1升ビン)、10升が1斗(と、18リットル:灯油缶)そして、10斗が1石(こく、180リットル:“加賀百万石”という時の「石」)です。この関係は701年に制定された大宝律令(歴史で勉強しましたね)にも書かれているそうです。1石が1000合で、だいたい1合×3食×360日(旧暦の1年)=1080合と同じなので、1石というのは人が1年に食べるお米の量になります。お米の重さにすると150kgなので、今の人の倍以上のお米を食べていたことになります。1俵は4斗で約60kgあり、現在の一人当たりの米消費量が約1俵になります。

前回、広さの単位で反(たん、1反=10アール=1000平方メートル)というのを紹介しましたが、1反はその昔、1石のお米が穫れる面積として決められたそうです。現在では1反で500kgくらい収穫できるのですが、昔ははるかに収量が少なかったのです。

お米の量をはかるのに使われていた枡(ます)の大きさは江戸時代にきちんと決められ、縦横4寸9分(1寸は3.03センチ。約15センチ)深さ2寸7分(約8センチ)になりました。この1升枡の容量が約1.8リットルなのです。





里山たんけんレポート

第 110 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2009年3月1日(日) 雨

不順な天候が続いていましたが今日も雨となりました。冷たい雨の中を下流の沼までを一巡しました。タネツケバナ、ナズナ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、セイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、コハコベなど早春の野草が畦や路端を埋めていましたが冷たい雨でオオイヌノフグリなどは蕾状態で開花していませんでした。

昆虫は全く出現しませんでした。鳥も姿は少なかったのですが、常連のセグロセキレイのペア、アオジ、カシラダカ、モズが姿を見せ、カケス、ジョウビタキ、シジュウカラの声、ウグイスの囀りが聞けました。また、田んぼからはクサシギが5羽飛び出すなどの収穫もありました。ノウサギの姿を直接見ることはめったにありませんが糞がありました。ニホンアカガエルの卵塊の半数はオタマジャクシに孵っていたようでした。メダカは水温が低く水面に出ていませんでした。谷津の景観はまだ冬のように見えますが畦は緑が増し、ヤナギの芽は膨らみ遠目にも枝の色が変わってきていました。ノイバラのブッシュも葉が成長してきて緑がかって見えるようになりました。早春の雨の谷津田散策でした。

(参加者 大人4名; 報告: 網代春男)

第 94 回 下大和田 YPP「味わおう！春の谷津田」

2009年3月20日(金・祝) 雨/くもり

雨音に目覚めると外は大粒の雨。今まで一度も降られたことがない、YPP 恒例の野草を食べる会がついに雨のスタートになってしまいました。集まったのは常連メンバーばかり・・・と思っていたらはるばる川崎からホームページを頼りに参加して下さった方がいらっしゃって、みんなで元気を起こして雨の谷津を散策して野草を探しました。田んぼではアカガエルのオタマジャクシが泳ぎ、シュレーゲルアオガエルの軽やかな声もしていました。ニワトコ、セリ、ヨモギなどお馴染みの野草が見つかり、さっそく天ぷらにさせていただきました。ちょっとほろ苦さのある春の味、雨が降ってもやっぱりこれを味わわないと米づくりのシーズンを迎えられないという感じです。林にタープを張って雨よけにしていたのですが食べ始める頃には雨が上がり、最後は日差しも出てきました。人数が少なかった分、みんなお腹がいっぱいになるまで食べ、たくさんお話もできて満足の日でした。



雨も上がり記念撮影(撮影 田中正彦)

みんなお腹がいっぱいになるまで食べ、たくさんお話もできて満足の日でした。

(参加者 大人8名 報告: 高山邦明)

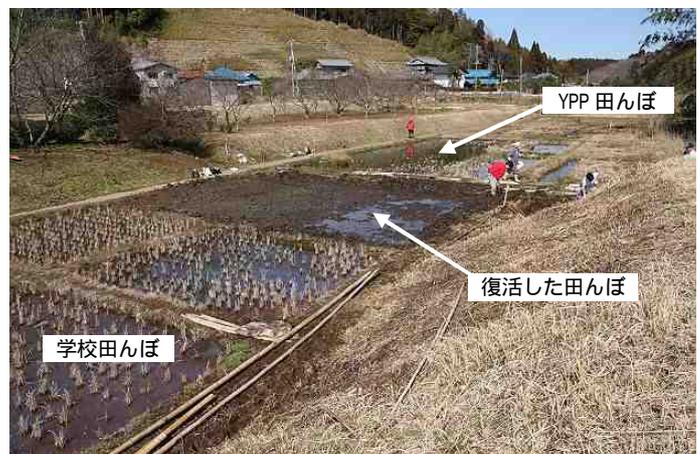
第 42 回 小山町 YPP「田んぼづくり」

2009年3月7日(土) 晴れ

2月に続いて YPP の田んぼと学校田んぼの間にあるアシ原の開墾・復田作業をしました。前回同様に保護者やボランティアの皆さん、学校の先生方がたくさん集まって下さいました。泥に足を取られながらスコップで少しずつ柔らかくして作業はなかなか大変ですが、手慣れた方もいるし、人数も多いのでどんどん作業が進み、ほとんど起こし終えてアシ原が立派な田んぼに変身しました。これで YPP 田んぼと学校田んぼが田んぼでつながって生きものたちには暮らしやすい環境が整いました。高校生も参加してくれて、土嚢を積んだり、竹を埋めたりして畦の補強作業を進めてくれました。

田んぼではアカガエルのオタマジャクシが泳ぎ始め、ウグイスもちょっと頼りない声ですが春の歌を聞かせてくれました。ただ、天気が良くて花粉がたくさん飛んでいたことだけがちょっと困りものでしたが。

(参加者 大人25名、小学生4名、高校生2名; 報告: 高山邦明)



新しい田んぼが出現!

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 3月15日 田んぼにヒキガエルの卵塊を見つける。ウグイスがさえずり、林でウグイスカグラが咲く(高山)。
3月21日 カケスがサシバの鳴きまねをして危うくだまされるところ。あちこちでウグイスがさえずり、シュレーゲルアオガエルの鳴き声もする。上空をノスリが飛翔(高山)。
3月29日 ヒキガエルが孵化して小さなオタマジャクシでいっぱい。ヘビイチゴ、ケキツネノボタンなど草花やクロモジ、キブシなど林の木の花も咲き、春爛漫(高山)。

下大和田

- 3月28日 田んぼでタガラシが黄色の花を咲かせる(高山)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第95回下大和田 YPP「田んぼの手入れ」・第96回「田起こし」・第97回「コシヒカリの田植え」

いよいよ本格的な米づくりのスタートです。畦の整備や古代米の苗代づくりに始まり、田起こし、そしてコシヒカリの田植えと次々と作業が続きます。生きものたちの息吹いっぱいの谷津を楽しみながらにぎやかに作業しましょう。

日時: 2009年4月18日(土) 田んぼの手入れ・古代米の苗代づくり

5月9日(土) 田起こし

5月16日(土) コシヒカリの田植え いずれも10:00~14:00、小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴、弁当、飲み物、お椀とハシ、敷物など。

参加費: 300円(資料代等)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第43・44回 小山町 YPP「田んぼづくり・苗代づくり」

今年の米づくりのスタートです。苗代を作ったり、田起こし、畦の手入れなどをします。小さなお子さんでも楽しめる作業ですのでお気軽に参加下さい。自然観察もしますよ!

日時: 2009年4月12日(日) コシヒカリの苗代づくり・田んぼの手入れ

5月6日(水・祝) 古代米の苗代づくり・田んぼの手入れ いずれも10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場
(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 帽子、長靴、軍手、飲み物、敷物など

参加費: 100円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター

第112回 下大和田 5月の谷津田観察会とごみ拾い

開花植物もぐっと多くなりました。いち早く出現するカワトンボなどが見られる頃です。ニホンアカガエルのオタマジャクシも子ガエルになって畦に出てくる頃でしょう。春たけなわの谷津田を散策します。

日時: 2009年5月3日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

編集後記 春の草花がひと通り咲きそろって谷津田の畦はお花畑です。ウグイスやシジュウカラ、メジロなど野鳥のさえずり、シュレーゲルアオガエル、アマガエルの鳴き声も谷津に響き、まさに春爛漫。これからお米づくりの大変な作業がはじまりますが、こうした谷津の自然に触れていると元気がわいてきます。皆さんもぜひ身近な田んぼに出かけてみて下さい。下大和田や小山でもお待ちしております! (高山邦明)